

**2013年3月期
第2四半期
決算説明資料
(2012年4月～2012年9月)**

2012年11月16日(金)決算説明会 発表資料

東洋合成工業株式会社

はじめに

代表取締役社長 木村有仁

当社の更なる成長に向け、研究開発のスピードアップと収益体質強化を推進し、グローバル競争を勝ち抜く強固な事業基盤を構築してまいります。

【方針】

- ① 顧客に常に役立つ製品を顧客と共に開発する
- ② R&Dを強化し、高付加価値化／差別化を実現する
- ③ 内外の問題解決に正面から取り組み先送りしない実直な経営を行う

■ 目次

1. 2013年3月期 第2四半期 決算概要 (P 4～)
2. 2013年3月期 通期見通し (P12～)
3. 今後の展望と当社研究開発状況について (P16～)

1 . 2013年3月期 第2四半期 決算概要

2013年3月期 第2四半期決算(連結)のポイント

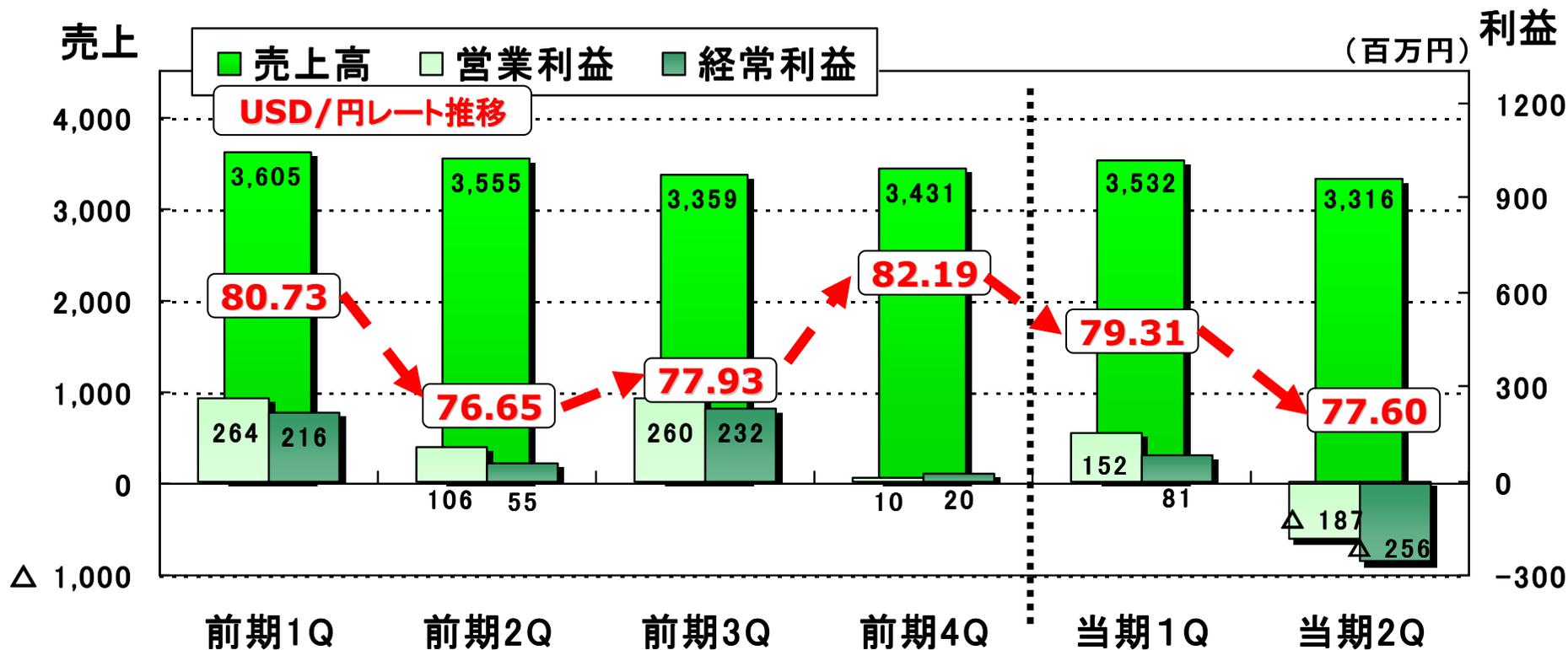
- 売上高は前期比△311百万円、計画比△350百万円**
 - 欧州財政問題の膠着化と新興国サプライヤーの台頭により、香料の売上が減少。感光材が検討するもカバーし切れず。
 - 円高継続による販売単価の下落及び価格競争の激化により計画未達に。
- 経常利益は前期比△446百万円、計画比△54百万円**
 - 売上高の減少、定修による低稼働に加え、投資が完了した香料工場のトライアル品が原価を押し上げ。
 - 円/ドル 前期末レート 82円、当第2四半期末レート 77円により、当期影響△59百万円。

科目 (百万円)	前期 実績 (A)	当期 実績 (B)	計画 ※ (C)	(B) - (A) 前期比 増減額	(B) - (C) 計画比 増減額
売上高	7,161	6,849	7,200	△311	△350
営業利益	371	△34	△70	△405	+35
経常利益	271	△174	△120	△446	△54
当期純利益	255	△207	△130	△462	△77

※2012年5月10日発表

■ 全社 売上・営業利益・経常利益 四半期別推移

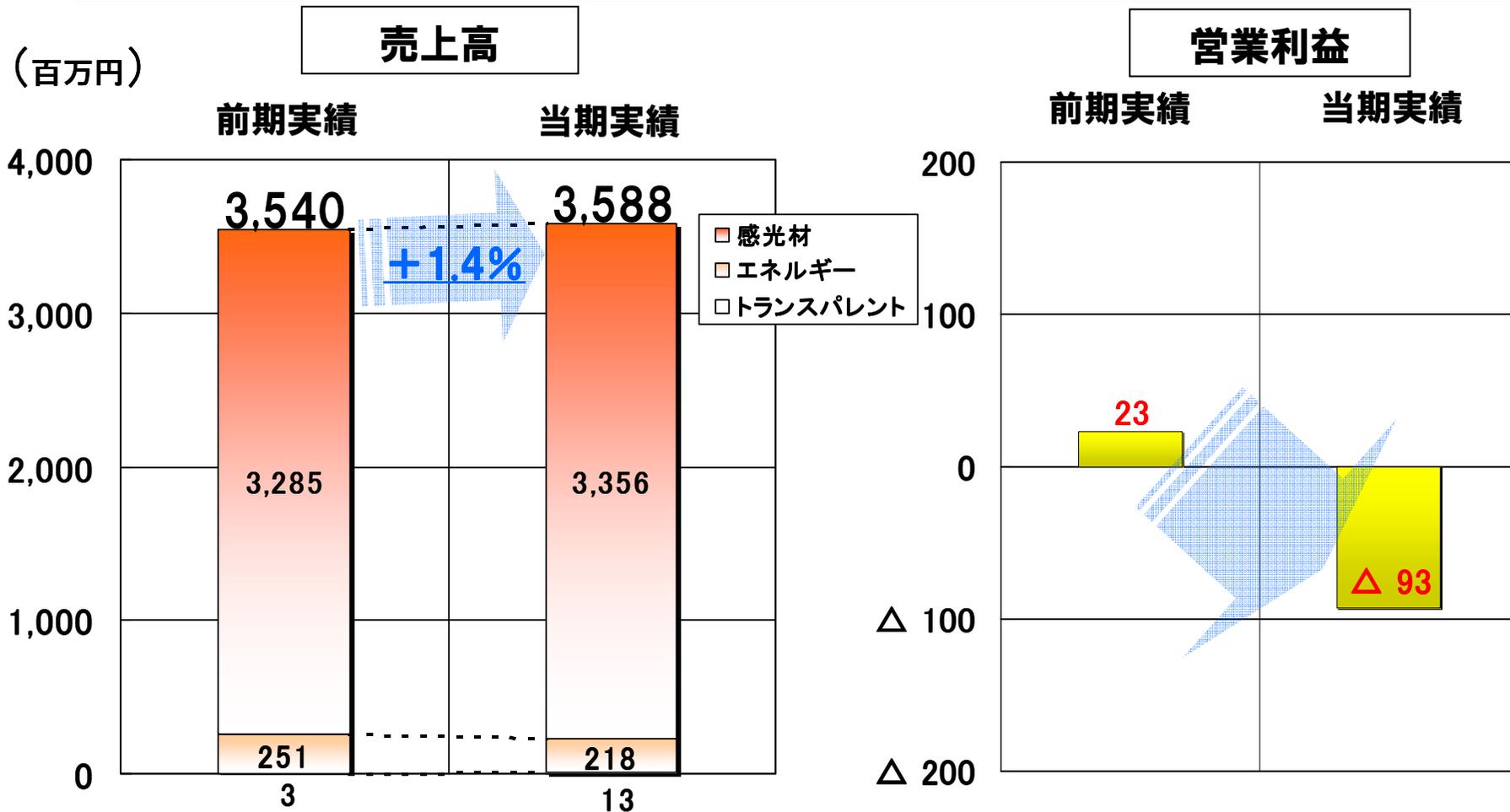
売上・・・円高定着により、海外売上が減少。
 利益・・・2Qは大規模修繕による稼働率の低下に加え、香料工場稼働に先立つ小ロットトライアル品の一時的な原価の押上げの影響で損失を計上。



■感光性材料事業 売上高・営業利益

売上高は、前期比1.4%増加。営業利益は、前期比116百万円の減少。

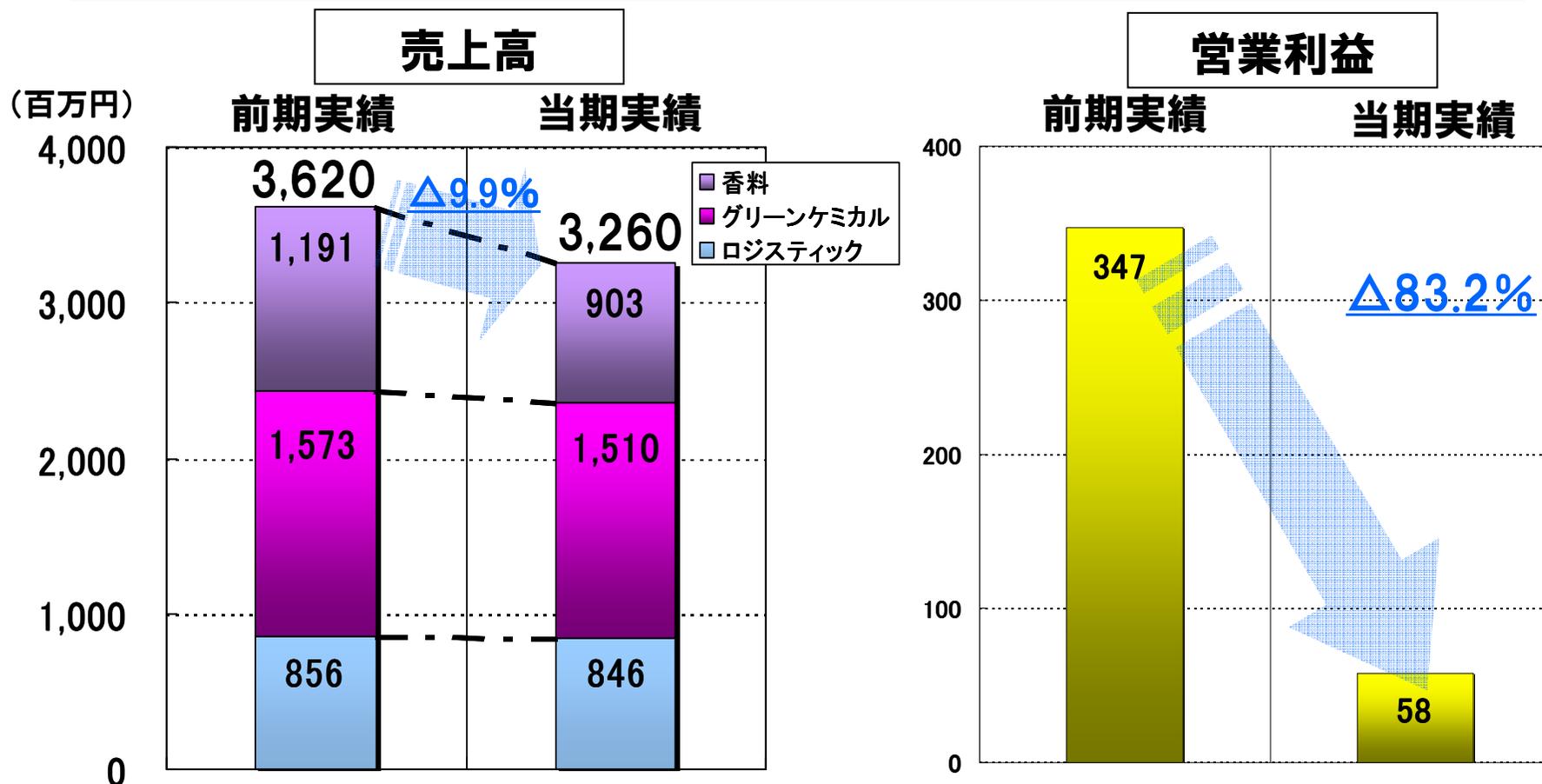
- 利益率の高い先端品が売上比率を上げ、既存品の売上減少をカバー。
- 液晶テレビの需要減速で、液晶用途向け感光性材料が低調、営業利益の減少要因に。



化成品事業 売上高・営業利益

・ 売上は、前期比9.9%の減少。営業利益は、前期比83.2%の減少。

- グリーンケミカル部門及びロジスティック部門は売上微減。
- 香料部門は、欧州の景気減速と円高による競争力の低下により売上、利益ともに減少。
- 香料工場の立ち上げに伴い、小ロットトライアル品の原価負担が一時的に利益を圧迫。



2013年3月期 第2四半期 連結損益計算書

【販売管理費】 前期に本社移転費用。

【営業外収益・費用】 支払利息及びコミット手数料の増加(+42百万円)。為替差損の減少(△7百万円)。

【特別損失】 固定資産除却損

科 目 (百万円)	2012年3月期 第2四半期決算(連結) 実績	2013年3月期 第2四半期決算(連結) 実績	対前期比	
			増減額	増減率
売上高	7,161	6,849	△311	△4.4%
売上原価	5,547	5,710	+163	+2.9%
売上総利益	1,614	1,139	△474	△29.4%
販売管理費	1,243	1,174	△68	△5.5%
営業利益	371	△34	△405	—
営業外収益	41	37	△4	△11.2%
営業外費用	141	177	+36	+25.5%
経常利益	271	△174	△446	—
特別利益	—	—	—	—
特別損失	2	13	+10	+396.3%
税引前当期純利益	268	△188	△457	—
法人税等・少数株主持分利益	13	19	+5	+40.65%
当期純利益	255	△207	△462	—

2013年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

【流動資産】 現金預金及び棚卸資産の減少により836百万円の減少。
 【固定資産】 香料工場及び千葉工場への設備投資を含め2,499百万円の増加。
 【負債】 香料工場投資支払資金等の調達(コミットメント2,150百万円は期末時点未使用)。

科目 (百万円)	2012年 3月期 期末 (連結)	2013年 3月期 第2四半期 (連結)	増減	科目 (百万円)	2012年 3月期 期末 (連結)	2013年 3月期 第2四半期 (連結)	増減
流動資産	9,960	9,123	△836	負債	20,063	21,980	+1,916
現金預金	1,808	1,480	△328	買掛債務	1,931	1,893	△37
売上債権	2,574	2,375	△198	有利子負債	13,308	14,316	+1,008
棚卸資産	5,178	4,884	△294	その他	4,823	5,770	+946
その他	398	382	△15				
固定資産	16,659	19,158	+2,499	純資産	6,556	6,302	△253
有形固定資産	15,697	18,267	+2,569	株主資本	6,565	6,334	△231
無形固定資産	407	361	△45	評価・換算差額	△10	△32	△22
投資・その他	554	530	△23	少数株主持分	0	—	△0
資産合計	26,619	28,282	+1,663	負債・純資産合計	26,619	28,282	+1,663

■ 2013年3月期 第2四半期 連結キャッシュフロー計算書

- 税前損失計上するも、営業CFは9億円台を維持。
- 投資活動によるCF 22億円により、借入残高は143億円(前期比+10億円)へ。

科 目 (百万円)	2012年3月期 第2四半期決算 (連結)	2013年3月期 第2四半期決算 (連結)	増減
営業活動によるCF・・・(A)	954	931	△ 22
税金等調整前純利益	268	△188	△457
減価償却費	852	626	△226
たな卸資産の増減額	△668	294	+962
その他運転資金の増減	612	160	△451
その他	△111	39	+150
投資活動によるCF・・・(B)	△1, 322	△2, 213	△890
フリー・キャッシュフロー(A+B)	△367	△1, 281	△913
財務活動によるCF	389	956	+567
現金及び現金同等物の増減	17	△328	△345
現金及び現金同等物の期末残高	594	970	+376

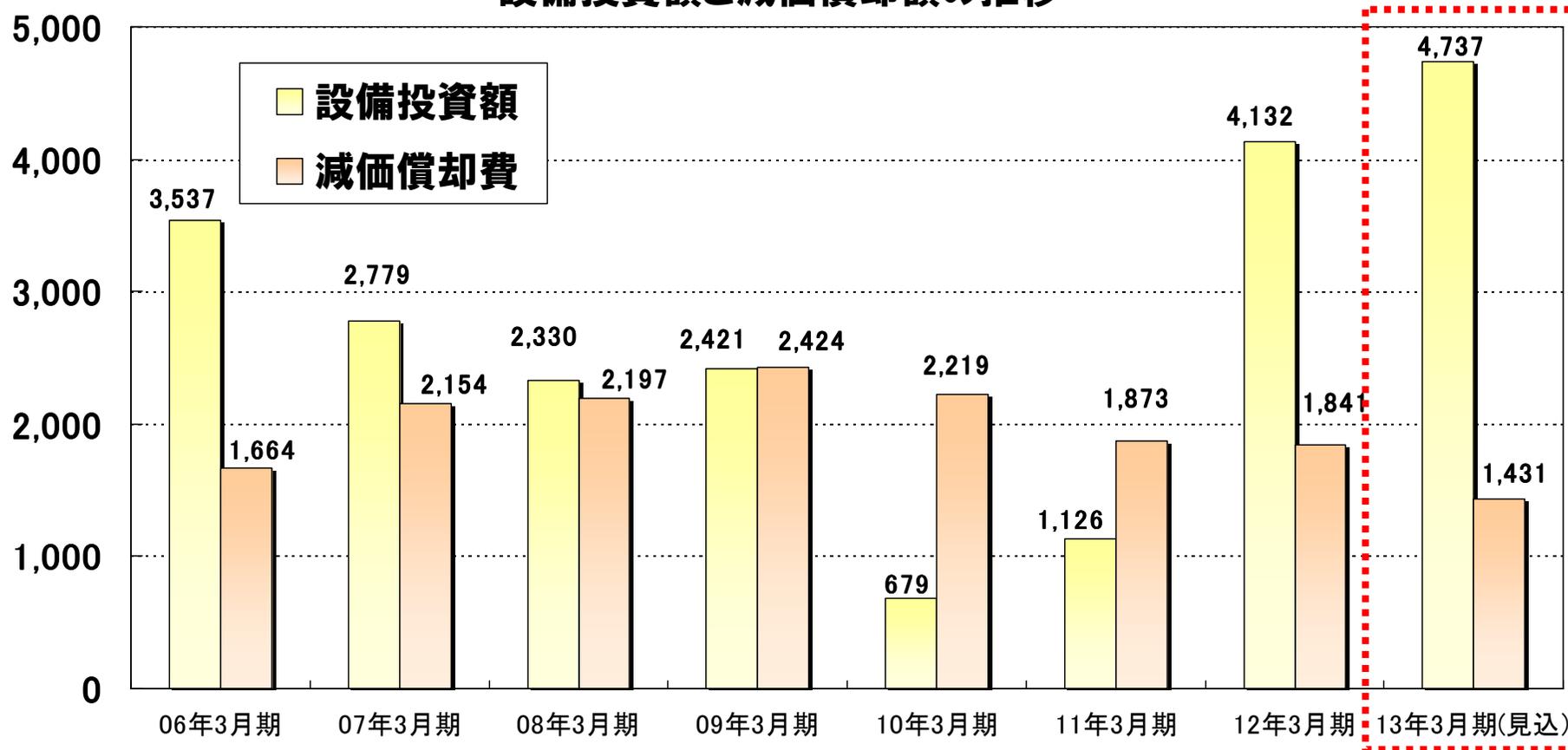
2. 2013年3月期 通期見通し

■設備投資と減価償却費の推移および計画

- ・63期 香料工場償却負担253百万円、淡路工場は64期より償却開始見込み。
- ・償却方法を定率法から定額法へ変更、63期の減価償却費は14億円を見込む。

(百万円)

設備投資額と減価償却額の推移



2013年3月期 業績予想

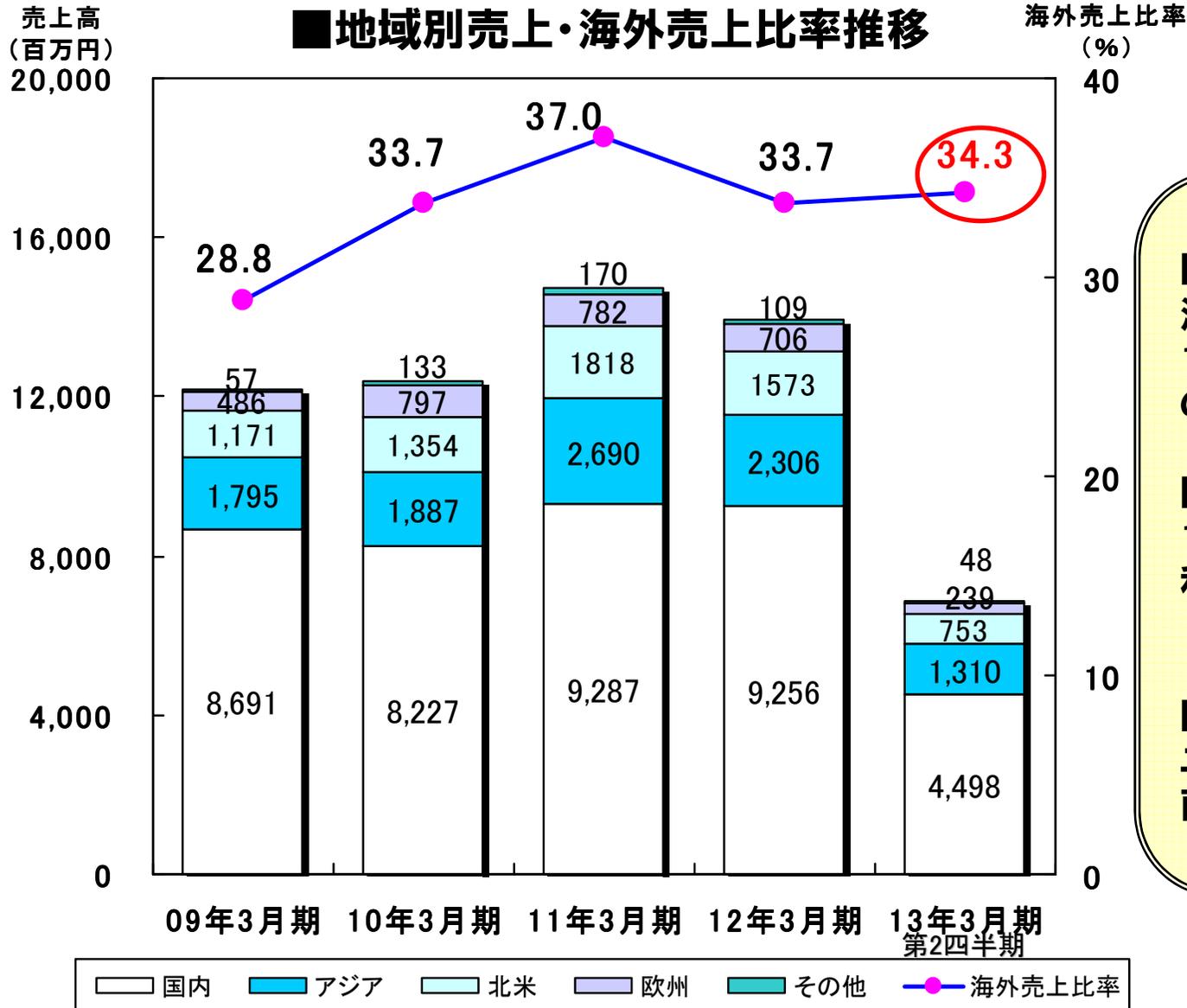
- ・売上高150億円以下、期初予想に変更なし。
- ・利益率の高い感光材先端品や蓄電デバイスの拡販を中心に予算達成を目指す。

科目 (百万円)	2013年 3月期(連結) 上期実績	2013年 3月期(連結) 通期業績予想
売上高	6,849	15,000
営業利益	△34	120
経常利益	△174	20
当期純利益	△207	0

・為替レートは、通期
ドル/円78円
ユーロ/円100円
を想定。

海外売上比率・為替の影響

地域別売上・海外売上比率推移



海外売上比率
 海外売上比率は34.3%
 10年3月期以降30%超
 の水準

USDドル
 1円の変動による
 利益に対する影響額
 ……約23百万円(半期)

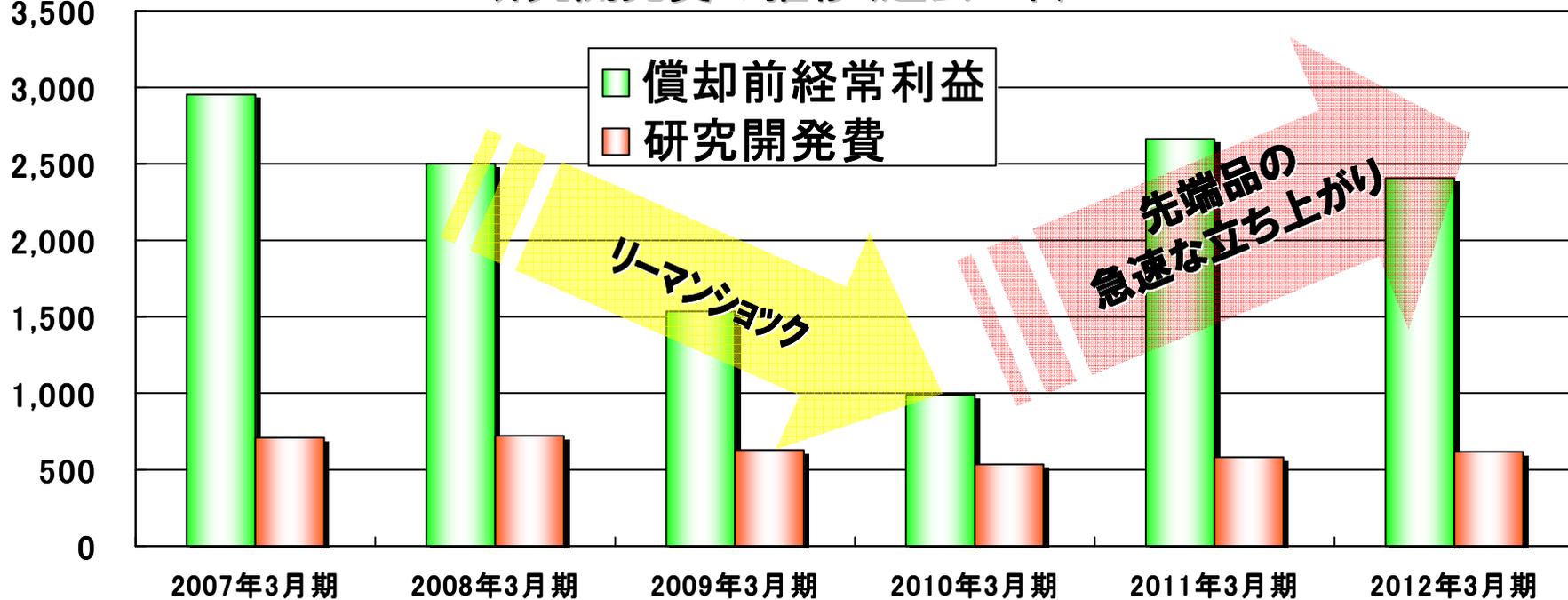
ユーロ
 ユーロ建て取引は僅少。
 直接的なリスクは少ない。

3 . 今後の展望と 当社の研究開発状況について

■当社のR&D体制について

(百万円)

研究開発費の推移(過去6年)



- ・感光材研究所(千葉県印西市)および各工場のプロセス開発にて研究員を配置。
- ・著名な先生が当社の顧問として、技術指導。
森謙治先生(元東京大学名誉教授)、森島洋太郎先生(福井大学副学長)
- ・近年は、研究開発費を6~7億円/年を投入。リーマンショック後は、感光材の先端品の急速な市場の拡大に素早く対応。

感光材研究所(千葉県印西市)の写真



感光材部門のアプローチ範囲

半導体

大容量化(ビックデータ)
超高速通信普及による
高性能半導体の需要増!

液晶パネル

液晶TV

高精細化

データセンター

クラウドコンピューティング

高速CPU
高集積メモリ
等

スマートフォン
タブレットPC
ウルトラブック
携帯ゲーム機 等

<当社 研究開発課題>

- ・高性能半導体の需要増加により、半導体向け感光材に対する品質要求が増加。
- ・液晶向けも、スマホ&タブレット向けの高精細パネルの登場により、品質要求増加傾向。

■ フォトレジスト 用途別一覧

・半導体の微細加工技術が進化し、20nmレベルまで量産化。
 ・現在はArFの技術を改良し、微細化を進めている段階。(当社注力領域)

光源	LCDパネル用		半導体用						
	g線	i線	既存品				先端品		開発中
			g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	ArF <small>ダブルパターニング</small>	EUV
ノード	~2,000nm	~1,000nm	~700nm	~200nm	~110nm	~65nm	~45nm	~22nm	~16nm
用途	テレビ用パネル	小型パネル	パワー半導体	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ	4コア GBメモリ TBメモリ モリ		最先端メモリ・ プロセッサ
市場	新興国の 需要増 価格下落	LTPS (PDA,カーナビ、 携帯電話) の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	急拡大		プロトタイプ露光 機 販売中 材料開発中



■ 当社の最先端感光材開発状況 (ArFからEUVへ)

2012年現在

????年

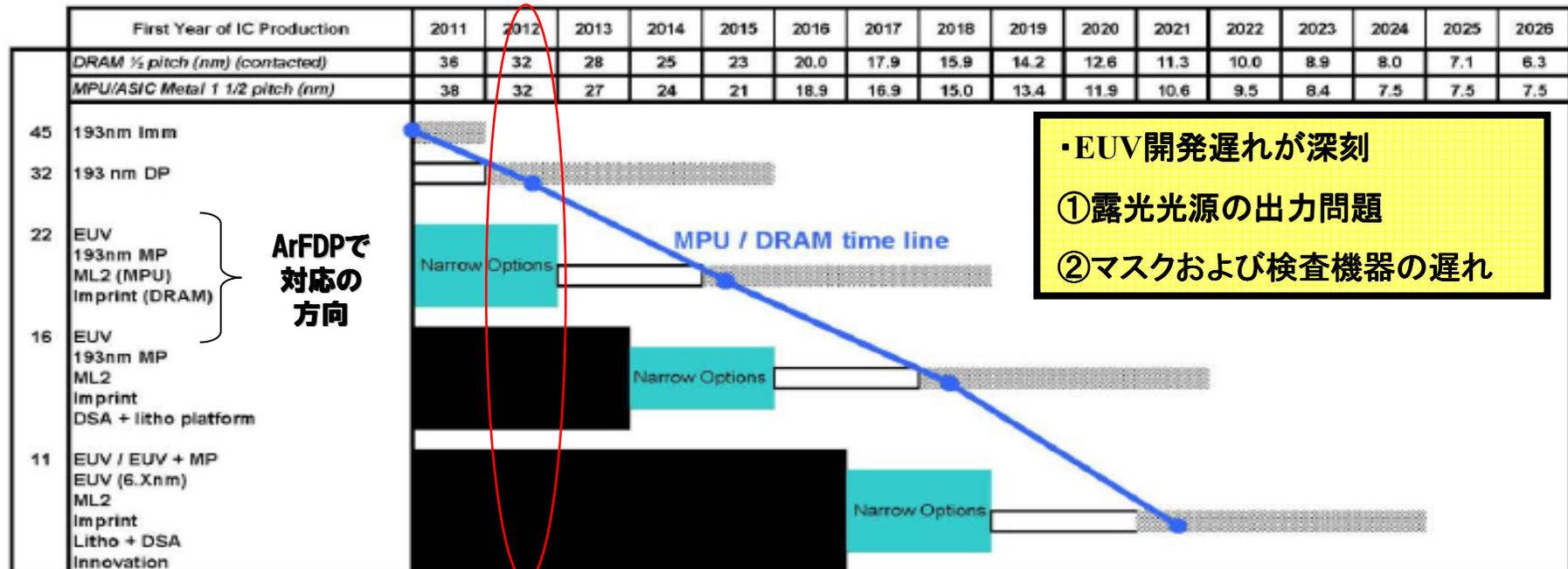
ArF用感光材

EUV用感光材

PAG(光酸発生剤)

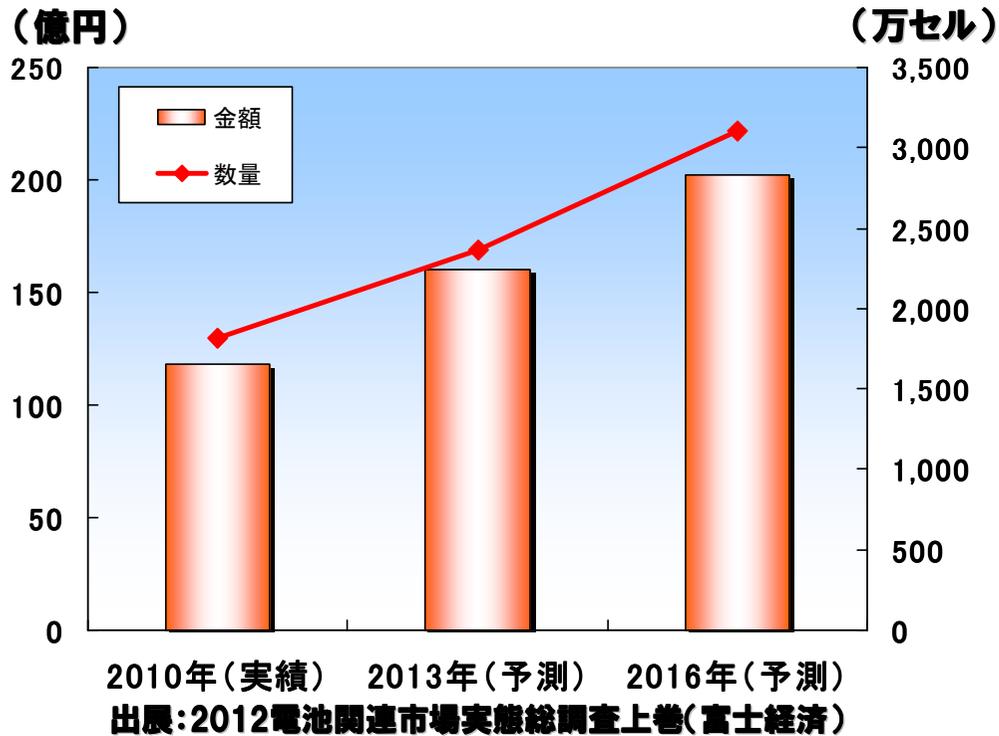
- ・当社の強みは、①一貫合成 ②メタル・不純物管理 ③反応再現性 ④様々な感光材の提案
- ・感光材のR&Dは、ArFの改良とEUVの開発へ注力。

ITRSロードマップ2011 (MPU, DRAM)



電気二重層キャパシタ用途電解液

中・大型用途市場規模



- ・エコカーの普及により車載向けキャパシタ電池市場増加へ
- ・急速な市場の立ち上がりに対する生産に対応。
- ・使用環境に応じた電解液の開発。

市場の成長率引役

車載向け



従来品



■ 香料工場の稼動について

- ・2012年9月
香料工場(千葉県東庄町)が
本格稼動開始
⇒欧州債務危機の影響を受けた円高
および新興国サプライヤーによる
価格低下

香料工場 外観



<対策① R&Dの強化>

- ・R&D専属部隊の立ち上げ
一年間100トン以上使用される
香料原料約238種類の
マーケティングを開始
- ・設備の優位性を生かした
新用途開発

<対策② 香料以外の案件強化>

- ・化学業界のサプライチェーン
の変化による新規ビジネスの
開拓
- ・大手からの委託蒸留案件獲得

グリーンケミカル部門の研究開発について

当社の強み

- ・感光材で培ったレベルの高い品質管理
- ・電機・電子関連の製造工程で使用される各種溶剤ニーズに対応し、蒸留技術の高度化に対応
- ・半導体製造工程向け溶剤にも着手

市場環境

- ・国内電機・電子メーカーの「コスト削減ニーズ」および「環境保全意識の高まり」を背景に溶剤リサイクル需要は増加傾向
- ・年々、求められる品質は高度化傾向へ

不純物管理の基準について

1CC
あたりの
不純物数
で管理

半導体向け溶剤になると…
1CCあたり
0.1 μmの不純物⇒100個以下
0.5 μmの不純物⇒4個以下の
管理が必要

管理・分析方法を開発

【製造拠点】
市川工場(千葉県)
淡路工場(兵庫県)
※2013年春竣工予定

溶剤再生
高純度精製



品質管理強化

分析強化



電子材料
メーカー各社様
(各種溶剤)

淡路工場の建設状況

淡路工場概要

所在地:兵庫県淡路市生穂新島

面積:50,500㎡

工事の進捗

- ・土地造成工事 総額2億円(上期に完了)
※津波対策含む
- ・施設建設工事 総額16.5億円【1期工事】
完成予定:2012年3月

淡路工場写真(建設中)



主な生産品目

リチウムイオン電池製造工程で使用する溶剤

電子材料(IC・FPD)製造工程で使用する溶剤

関西エリアについて

関東に比べ、二次電池メーカーや電子・電機メーカーが数多く集積

<関西地区>

リチウムイオン電池工場マップ



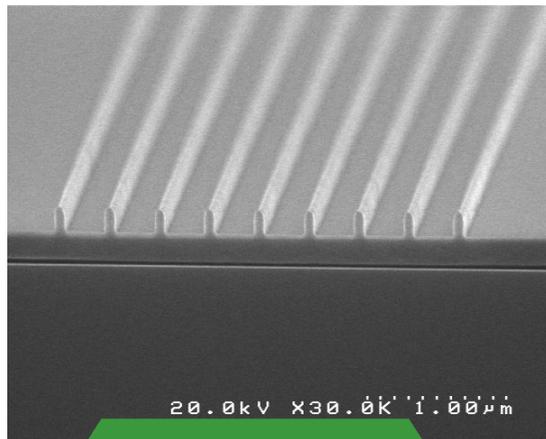
■ UVナノインプリント用光硬化性樹脂の開発

ナノインプリントによるアプリケーションの応用例

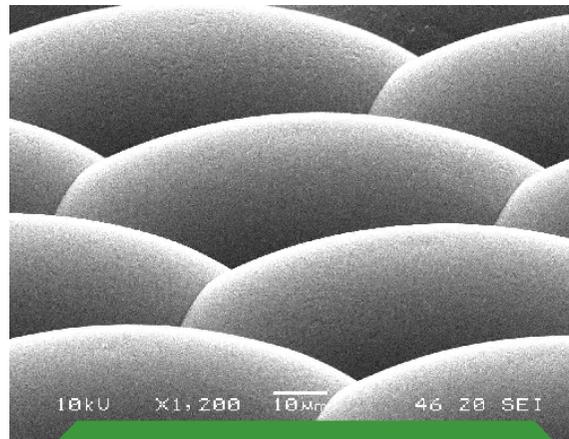
フレキシブルディスプレイ、LCD向け光学フィルム、LED、
次世代ハードディスク、半導体、バイオ用途、etc

UVナノインプリントとは・・・金型に液状の光硬化性樹脂を充填させ、
UV照射で樹脂を硬化させて微細な形状を作る加工方法

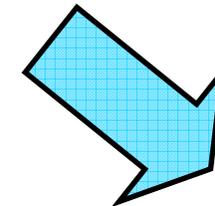
国内で初めてUVナノインプリント専用光硬化性樹脂PAK-01を販売(2004年)



60nmライン



80 μmマイクロレンズ



デジカメやスマートフォン
用のカメラレンズ用途に開発
(製造工程の簡素化によるコスト削減)

PAK-01の転写例

ナノ～マイクロサイズまで転写性に優れている

UVナノインプリント用光硬化性樹脂の開発

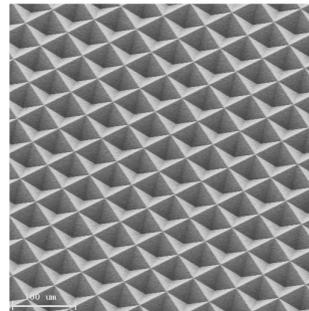
光学フィルムへの応用例

フィルム上にUVインプリント樹脂の
パターンを形成
(弊社PAK-02使用)

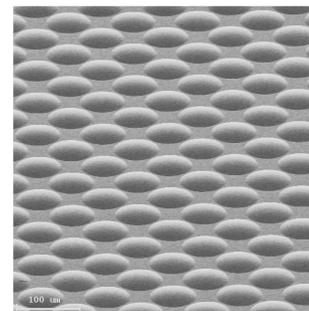
V溝90° クロス



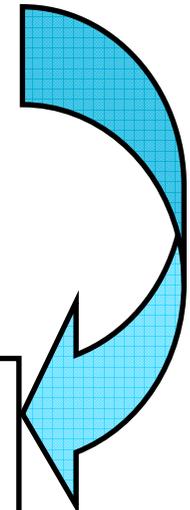
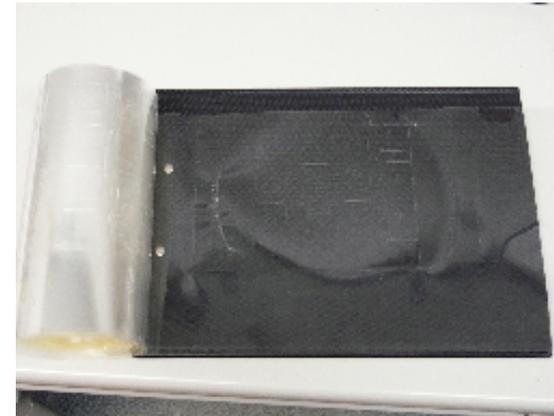
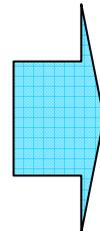
ロール金型 ドットパターン
Roll toRoll UVインプリント装置



V溝90° クロス



ドットパターン



(a)インテリジェントペーパー

(b)ウェアラブルスマートフォン

(c)ロールスクリーンディスプレイ

フレキシブルディスプレイ等に
展開可能に！

東京大学・片岡教授の研究成果と東洋合成工業の水溶性感光材を利用した”Cell-able[®]” は様々な細胞の三次元培養を可能にしました。

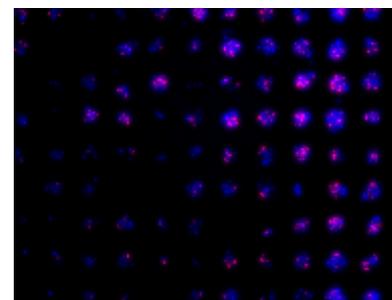
＜培養例：三次元がん細胞培養の実現により、抗がん剤開発の強力なツールに＞



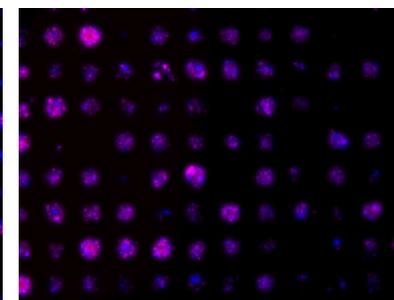
患者由来
がん細胞



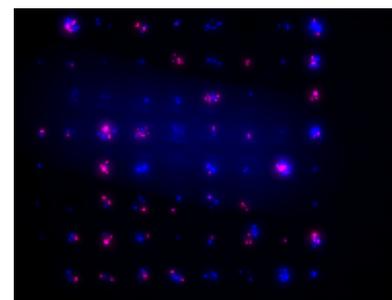
Cell-able[®] Oncology



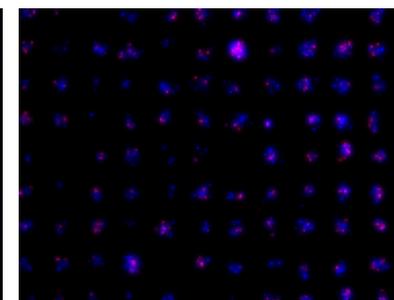
肝細胞がん



頭頸部がん



メラノーマ

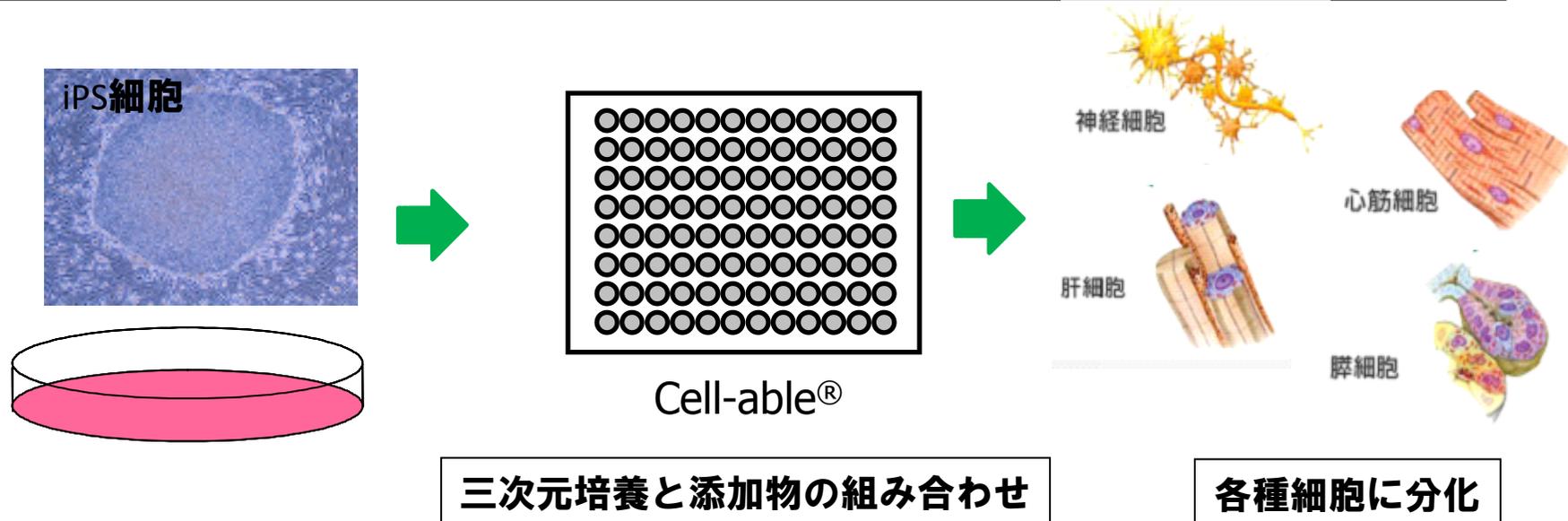


乳がん

“iPS細胞培養への展開”

2012年、山中伸弥・京大教授がノーベル医学・生理学賞を受賞され今まで以上に注目を集めているiPS細胞。このiPS細胞を必要な臓器(肝臓など)の細胞に効果的に導くため、3次元培養システム”Cell-able[®]”に着目し、これを用いた研究が進んでおります。

これまで、2社の製薬企業を含む3社の企業、4つの大学・研究機関で使用されています。今回のノーベル賞受賞を機にさらにこの分野への研究は加速され、”Cell-able[®]”が使われる場面もますます増えていくと予想されます。





東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。